

「心構え」

林間学校で多くのことを学べるよう、今までいろんなことを調べたことを思い出してみました。初めは、去年の今頃、青井先生の入門講座で、小動物のことについて興味を持ったところからでした。小動物なんてお構いなしに今まで生きてきた私にとって、とても不思議でお話を聞くのが楽しくてたまらなかったのを思い出してみました。そのあとは、鳥について興味を持ち、(モズ)の生態に衝撃をしたのだった。鳥、見れるかな?鳴き声聞こえるかな?そんなことを、思いながら林間学校が始まりを迎えました。私が選んだコース。1日目は「森のダム」というテーマによるコースです。2日目は「バードウォッチング」自分が知りたかったこと、たくさん学ぼうと張り切りました!

「すごいこと!」

1日目、「森のダム」橋口直幸先生(はっしー)のガイドにより歩きました。私は、今まで生物のことを主に調べてきたので、「森のダム」をよく知りませんでした。少し、林間学校前に調べてみたけれども、ややこしくて、さらに難しくて、私には、理解が…。森というワードが入っているのだから、木が見れるのかな、とっていました。コースに、入り木道を歩きました。私が思っていたよりも、木が少なくて森のダムって何?と不思議に思いました。木道の周りには、鮮やかな色をした、花を発見!!きれいだけれど…。橋口先生は、その花を見て、これは「オオトリカブト」と言ってとても危険だと、教えてくれました。この「オオトリカブト」、木道の周辺には、大量に咲いており、きれいだけれど、なんだか毒があると聞いて、いい気分にはなれませんでした。オオトリカブトとは、とても有名な花らしく、小説などにも出てくるのだそうです。毒は、ものすごい強いものでフグの次…ともいわれる花ということでした。野草などに間違えやすい種類もあるそうです。危険なので、見ておくだけです。

「天敵!？」

蜂の姿を見ました。花の蜜を採りに来た蜂!この蜂は、優しい蜂で人は刺さないと聞いていました。しかし、蜂は怖いものです。この花、見た目の形が面白い花で「ツリフネソウ」といい、これは、じめじめとした、湿地に多く群がって生えています。花の奥には蜜があり、この蜜目当てに、蜂がやってくるそうです。



「自然」

木道、じめじめとした空気の中を歩いていると、だんだん木が見えてきました。木道から離れて、道に木の実が落ちていました。拾ってみると、それはクルミでした。たぶん初めて見た、殻つきのくるみです。だけれど、落ちている多くが、殻だけ…。しかも、きれいに取られていて、よく見てみると、殻の中に細い線の傷が付いていました。このクルミの実を食べたのはリスだそうです。きれいに食べて殻だけを置いて行くなんて、器用なリスだなーとおもいました。

歩き進めて、だんだん道も、木道ではなく土になってきました。道も坂みたいになってきて、急になり疲れてきました。周りには木があり、じめじめとした空気も無くなり澄んだ空気になりました。少しの休憩に入り、倒れた木を発見! こういう木って、きのことか生えてそうだなーとか言いながら、ぐるぐる見て回りました。そしたら、倒木の上に茶色のものがあり、確か5~6センチくらいの大きさのものでした。先生によれば、「さるのこしかけ」と、いうものらしく見た目は、きのこ…です。このさるのこしかけは、私が思った通りキノコの種類でちょっと変わった名前の由来は、ちょうど猿が腰をかける椅子のようだったので、この名前がついたのだそうです。実はこの、さるのこしかけすごいものらしくて、見た目決めちゃいけないね。中国では昔から「幻の生薬」と呼ばれるほど、大変珍重されたものだったようです。

「新しい発見」

道に葉が落ちていました。こんなことは、よく見かけるので私はスルーでしたが、先生が止まり、カエデだと教えてくださりました。カエデって、天ぷらや漢方薬にもなる、優れた木だと知りました。険しくなり始めたころ、ちょうど休憩となり、座っていました。ベンチの前に1本の木がありました。背丈はほかの木と比べると小さく、白っぽい木に、黒い点がいくつか、その木の枝を先生が嗅いでみるといいよ! と言ったので、みんなで嗅いだら、何処かで嗅いだ事のある匂いだね! という言葉が多くあり、かんきつ系!? かなと、言っていました、その匂いはなかなか、いい匂いで落ち着くような匂いでした。この木の名前は、「クロモジ」というもので、和菓子などを食べる時に使う、つまようじに使われる木だそうです。

本題「森のダム」

周りに多くブナの木が見えた頃、テーマの「森のダム」についてお話を聞きました。

森は雨水を土に染み込ませ、土の間に隙間を作り、水をたくさん蓄えるのだそうです。土には落ち葉などの枯れ葉が多く含まれていて、とてもいい潤いになるそうです。



その蓄えていた水を、時間をかけて、川に流していくので、先生はスポンジみたいなものだと言っていました。

「バードウォッチング」

2日目は、私が今まで調べてきた鳥について多く聞けるとあって、とっても楽しみにしていました。私は今まで、先生から頂いた本に載っていた、モズという鳥に興味を持ち調べてきました。モズってとっても有名な鳥で、昔話などにもでてくるほどなのです。いろんな声のでることから、漢字では百舌鳥と書くのだそうです。ものすごく、モズは好きなのですが、モズの生態は千葉でも見られるということもあって、福島の野鳥を見ようと思っていました。ですが、季節が秋ということもあり、あんまり見えないかもしれないと、聞いて、頑張って探してみようと、思いました。

2日目のネイチャーガイドの先生は、草野先生でした。ホテルを出て、すぐのところの木が不自然だと草野先生が言うので、見ていたら、上の方の葉の色が確かに違います。まるで、何か違う木の枝を乗せたように。その木は、ある鳥によってなってしまったのだと、おっしゃっていました。鳥が木の実をくわえて持ってきて種を元の枝につけて、違う種類の木をつなげてしまったのだということでした。

カラスを見ました。いつも見ているようだけど、生態をあんまり知らなかったのです。カラスは、2種類いるそうです。「ハシブトガラス」と「ハシボソガラス」です。1つ1つ教えてくださいました。ハシブトガラスは、くちばしが太く分厚くて、額が盛り上がっていてオスとメスの見分けがむずかしいのだそうです。鳴き声が、「カーカー」で歩き方がピョンピョンと、両足をそろえて飛ぶように歩くそうです。

ハシボソガラスは、くちばしが細く額が平たくて、内股気味に歩き、鳴くときにお辞儀をするかのように頭を下げて「ガァーガァー」と鳴きます。歩き方は、足を交互に出して歩きます。カラスのことをよく知れました。

アカショウビンという鳥は、オスしか鳴かないそうです。オスがメスに求愛をしているときに、鳴くのだそうです。セキレイという鳥は、3種類いて、水辺の近くにいるのが、ハキセキレイ。川の近くにいる、背中が黒いのが、セグロセキレイ。黄色いセキレイはキセキレイです。セキレイは、どれも飛ぶのが早い。

ホオジロという鳥はホヨホーヨと鳴きます。ホオジロの鳴き声だけ聞けることができました。「ノスリ」という鳥の姿を見れました。遠目で、見ましたが、大きい鳥だとわかりました。カワウも見ました。この鳥は、木の実も食べ、魚も食べます。川の近くにいる、ウは、ウミウという種類もいて、海に多くいるそうです。ウミウは、魚を食べて暮らしているそ

うです。アカゲラの鳴き声を聞くことができました。ピーヨピーヨと、かわいらしい声でした。メジロは、フルーツ好きで、たくさん花粉を付けているときがあるそうです。キウイの原種というものを見ました。緑色をしていて、ツルツルしていました。毛がないんです。しかも、ものすごく小さくて、食べてみたら、キウイの味、そのものでした。「サルナシコクワ」というらしいです。



サルナシコクワ

水生昆虫の卵を見ました。少し気持ち悪い…

1日目には木などの植物、2日目には植物と鳥。どちらのコースでも、たくさんのことを学ぶことができました。たくさん自然によって学ぶことはたくさんありました。自然による澄んだ空気が気持ちよかったです。自分が知りたかったことをすべて知れたので、とても充実したもので、とても良いものでした。

